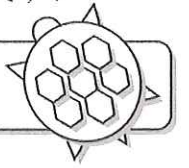


# 亀さん通信

紅葉の季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり、確実に身につけていただく【亀さん通信】第 169 号の発信です！

## 丙午年の生まれの女性は…



「丙午（ひのえうま）年の生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮める」。こんな言葉を聞いたことはありませんか？実は単なる迷信にすぎないのですが、江戸時代に起こったある事件がきっかけとなって現代まで伝わり、過去の記録を見ても丙午の年には出生数が大幅に減少しています。今回は、出生数の推移などの人口動態を通して、日本の未来に思いを馳せてみましょう！

今から遡ること 350 年、江戸の大火で焼け出された八百屋の娘、お七（16 歳）が避難先である寺のイケメンに恋をします。やがて自宅が再建されてお七一家は寺を引き払いますが、イケメンへの想いは募るばかり。そこで「また焼け出されたら、あのイケメンに会える！」と自宅に放火。幸いぼやで済んだものの、当時の放火は重罪です。お七は捕縛され火刑に処せられることに…。「八百屋お七」という哀しいお話です。そしてこのお七が丙午の生まれ（諸説あり）だったため、**丙午生まれの女性は縁起が悪い**という迷信が、現在まで語り継がれているのです。

さて、現在のような出生率（1 人の女性が生涯に出産すると見込まれる子どもの数）が公表されるようになって、最初に到来した丙午は 1966 年。この年の出生率は 1.58。前年が 2.14、翌年が 2.23 ですから、かなりの減少となって戦後最低を記録しました。丙午の迷信が昭和になっても依然として根強かったという証拠でしょう。ところが、次の丙午である 2026 年を待たずに、出生率は次第に下がっていきます。そして 1989 年には 1.57 となり、ついに戦後最低を更新してしまいます。ちなみに 1989 年という年は、日経平均株価が史上最高値（38,957 円 44 銭）をつけたバブルの絶頂期。丙午生まれの人たちが大卒社会人 1 年目の年だったという、何とも因縁めいたものを感じます。

では、時計の針を現在に戻しましょう。今年に発表された「人口動態統計」を見てみると、出生率は 1989 年よりもはるかに低い 1.43。生まれた人は戦後最小の 94 万人。亡くなった人は戦後最多の 134 万人。つまり日本の人口は約 40 万人減少したということです。この数字を見てどう思いますか？ちなみに私はガクブルでした。何故なら 40 万人といえば、**岐阜市が消滅**したくらいのインパクトなのです！さらに統計を詳しく見ていくと、日本の未来に悲観してしまうのは私だけではないでしょう…。

このまま人口が減少していけば、日本全土が空き家だらけになることは容易に想像できます。ということは、供給が需要を上回り、**土地の価格が下落**するのは自明の理。利便性の高い土地ならいざ知らず、地方の土地は売りたい手も買手がつかないという状況に陥る可能性が高いはず。それにも関わらず、2019 年 10 月の消費税率引き上げ前には、前回ほどではないにしろ、住宅の駆け込み需要が発生するでしょう。**将来的に価格が下がるものを決して安くはない金額で購入**する。しかもローンを組んで…。長期投資の観点から考えれば、とても正気の沙汰とは思えません。常に大局を見据えて、くれぐれも本質を見失わないように気をつけたいものです。

「人口、年齢、雇用、教育、所得など、人口構造にかかわる変化ほど明白なものはない。見誤りようがない。予測が容易である。リードタイムまで明らかである」。「もしドラ」で広く知られることになった現代経営学の巨人、ピーター・ドラッカーはかように記してします。この言葉に従えば、日本の人口問題は明らかに**政策的な失敗**でしょう。とはいえ、その政治家を国会に送り込んできたのは、他ならぬ私たち。ですから私たちにできることは、いくつものシナリオを想定して準備すること。国に頼らず、**自助努力で未来に備える**のです。次の丙午である 2026 年、はたしてこの日本はどうなっているのでしょうか？

今年も残すところあと 2 ヶ月。本当に早いなあ…

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミ北口) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com